

スリランカに初の左派大統領

ピープルズ・デモクラシー 2024年9月25日

[The First Left President of Sri Lanka | Peoples Democracy](#)

スリランカの人民解放戦線 (JVP) 党首で、全国国民の力 (左派と進歩諸党の連合) の代表 ANURA Kumara ディサナヤケが、スリランカで9月21日に行われた大統領選挙で勝利した。

57,40,179 票 (42.3 %) の得票は、2019年に獲得した4,18,553票 (3.16%) を大幅に上回る。これは歴史的な勝利であり、スリランカで初めて左派指導者が大統領職を獲得した選挙となった。

支持率の急上昇とディサナヤケの勝利は、2022年に国を揺るがしたアラガラヤと呼ばれる大規模な民衆闘争を、彼の党、人民解放戦線 (JVP) が指導した直接の結果である。人々は制度化された政治腐敗と燃料やガスなどの必需品の不足にうんざりしていた。そしてゴタバヤ・ラジャパクサ大統領率いる政権に抗議の声を上げた。

イギリスからの独立以来。70年間に実施された悲惨な経済政策は、農民の困窮、インフレ率の上昇、失業、生活水準の低下を招いた。溜まりに溜まった怒りは、この抗議行動によって爆発した。ラジャパクサ大統領は辞任を余儀なくされ、逃亡した。

ラジャパクサなきラジャパクサ体制を打倒

2大支配階級の間で権力の座を維持しようと、ラジャパクサ家の支持に完全に依存するラニル・ウィクレミンゲが首相に就任した。しかし直面する問題に取り組もうとしなかったため、事態を打開することができなかった。

彼は IMF と融資交渉を行い、その厳しい条件の多くを受け入れた。汚職の脅威にも取り組めなかった。事態を解決するどころか、彼の政策は国民にさらなる負担を強いることになった。不平等が拡大し、20%の富裕層が国の所得の約半分を所有する一方、下位 20%の割合はわずか 5%程度にとどまった。

政府はその失敗に対する反対意見を武力で抑え込もうとしたため、国民は絶望的な不満を抱いた。議会はオンライン安全法や反テロ法など、民主的権利と自由を抑制する法律を可決した。このような背景の中で大統領選挙が行われた。

ディサナヤケの経済再建計画

各政党の選挙キャンペーンは、いかにして経済を再生させるかを中心に展開された。ディサナヤケの選挙マニフェストは、徹底して経済改革を優先した。NPP の選挙キャンペーンは、国民が直面している主要な問題を取り上げていたため、国民の想像力をかき立てることができた。

また、急増する経済的な不平等に対処することで平等を促進し、すべての国民が基本的なサービスと機会を利用できるようにするための政策変更をもたらすことも約束した。これには、構造的な制約を取り払うことや、教育制度や医療の改革も含まれる。

マニフェストはまた、社会から疎外され、不利な立場に置かれている地方の向上のための福祉や政府支援についても強調している。また、言語的・宗教的マイノリティに影響を与える問題について触れ、それらに対処することを約束した。

タミル人の人権尊重

2009 年の内戦終結以来、タミル人は権力の委譲と和解を求めてきた。歴代政権はこの 2 つの約束を守らなかったため、少数民族の間に不満が広がっている。

全国国民の力（NPP）は、タミル人が多数を占める州で、選挙を直ちに実施し（最後に実施されたのは10年前の2013年）、新憲法で彼らの懸念に対処すると約束している。

大統領制度の廃止と行政改革

政治分野では、ディサナヤケは、1978年以来続いている行政府の大統領制を直ちに廃止することを約束した。また、国会の即時解散と新国会の選挙も約束した。彼は「汚職と人種差別の文化を根本的に根絶する」と約束した。

行政の透明性と公開責任を確保するための改革を実施し、不処罰の文化に終止符を打つ。これらの公約は国民の支持を得た。

2022年の闘争は2大政党の限界を露呈し、人々は2大政党にうんざりしていた。伝統的な政党では、経済的・政治的混乱から脱することはもはやできないと感じたのだ。

彼らは代替案を探し、JVP/NPPがその代替案として現れた。彼らが闘争に積極的に参加し、政治においてクリーンで誠実であるという評判を享受していたことも、彼らを助けた。

IMF との対応など国際対応の変更

選挙に勝利した今、ディサナヤケと彼の同盟には大きな試練が待ち受けている。ディサナヤケにとって当面の関心事は、IMF 融資への取り組みだろう。彼は、諸条件を再交渉し、国民の福祉が損なわれないようにすると約束していた。

これと関連して、さまざまな国際条約の問題や、さまざまな国、特に近隣諸国や地域の国々との関係の再構築がある。インド洋におけるスリランカの戦略的位置と、この海域をパトロールしようとする米国の努力を考えれば、これは困難な課題であろう。

独立した外交政策を主張し、南アジア地域協力連合（SAARC）や非同盟運動（NAM）のメンバーとして相応の役割を果たすことで多極化を強化することは、国民にとって最善の利益となるだろう。

タミル人へのアプローチ

もうひとつの大きな課題は、少数民族に対する政府のアプローチだろう。実際、ディッサナーヤケはタミル人票の少数派しか獲得していない。これは、少数派、特にタミル人に対する彼の党のアプローチに潜む不安を示している。

戦争と経済的後進性によって、少数民族の大部分は疎外されており、ディサナヤケにはこれらの傷を癒す責任がある。北部と東部のタミル語圏にどのように権限を委譲するかが問題だ。

左翼政権に期待されるもの

人々は、彼らの誠実さと選挙戦に持ち込んだ新鮮さを信頼し、変化を切望してディサナヤケと NPP に投票した。今度は、勝者たちが公約を守り、人々の願望に応える番である。

我々は、ディサナヤケと JVP の健闘を祈るとともに、彼らが約束された変革を実現するよう、そして左派を強化するよう心から願っている。

ディサナヤケの勝利は、次のような信念を復活させる上で大きな意味を持つ。それは、支配階級政党に対抗する選挙での勝利が、闘争に参加し、闘争を主導することによってのみ達成できるという信念である。（了）

【翻訳チェック 鈴木頌】